

10. 23団結まつり

止めよう原発、核のない世界へ！
なくそう非正規労働、全ての争議勝利！
作り出そう、戦争と貧困のない社会を！



▲家族も一緒に団結してガンバろう



▲各地連のお店はすべて大盛況でした



▲鉄建公団訴訟原告団「闘いの矛はまだ収めない」



▲第五地連の新企画、金魚すくい



▲目玉商品は飛ぶように売れていく

10月23日(日)、亀戸中央公園A地区にて、第25回団結まつりが開催されました。国鉄闘争(1047名の解雇撤回闘争)は、政治決着という形で一応の終結となりましたが、団結まつりは継続をしていくこととなりました。テント張りなどの前日準備は、雨のなかの厳しい作業となりましたが、当日は晴天に恵まれ、成功裏に終了することができました。

国鉄闘争は一定の区切りをつけることとなりましたが、政府に不当労働行為の責任を認めさせたこの闘いは、「首切り自由社会」に歯止めをかけていく大きな成果を勝ち取りました。しかし、偽装請負や違法派遣や、整理解雇4要件違反、組合つづしの不当解雇と闘う

JAL解雇撤回裁判原告団の闘いも山場を迎えています。期間の定めのない雇用は、多くの組合員の参加を得るなかでスピーディーに進めることができました。また、まつり当日は、例年より、飲食物の販売やバザーなど行い、多くのお客様に足をとめていただくと

た。テントの立ち上げをはじめとした前日の準備作業は、足下の悪い状況でした。家族を伴って参加された方も少なくはなく、皆さんでまつりを大いに盛り上げていただきました。

また、各地連、本部、青年部、女性部の売り上げは、実行委員会を通じて、各争議団や福島原発訴訟等の活動にカンパをしました。

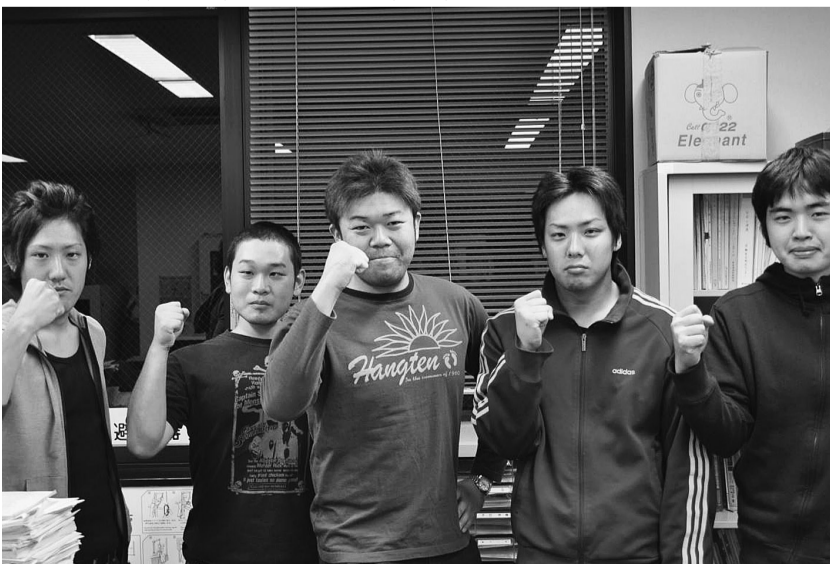


▲継続副委員長の「まとめ」で閉会

組織の先頭に立って闘うぞ!!

第56回青年部定期大会

▲左から、高木執行委員(品川)、岡田執行委員(葛飾)、長妻部長(墨田)、石川副部長(板橋東)、金澤書記長(新宿)



10月21日、13時より、S Kホールにて青年部第56回定期大会が開催されました。議長団に高木代議員(品川)、石川代議員(北)を選出し、長妻青年部長の挨拶で大会が始まりました。

来賓として、本部を代表して吉田中央執行委員長、また女性部から綱川部長、自治労本部からは青山青年部長にお越しいただき、公務員制度改革と給与削減特別法案を巡る情勢や定年延長、さらに今次確定闘争の課題などを踏まえながら、青年部を激励する挨拶をそれぞれいただきました。

2012年度運動方針(案)の討議では、新宿支部沼生代議員から組織強化について、練馬支部高田代

議員からは反戦平和運動について発言がされましたが、いずれも賛成の立場であり、満場一致の拍手で闘う方針が確認されました。

今大会から新たに品川支部の高木君を執行委員として迎え、長妻青年部長を先頭に新体制がスタートしました。東京清掃全体で青年部員は現在85名となっておりますが、少ないからこそできる中身の濃い運動を心がける職場を勝ち取るため、全力でがんばっていきます。

各支部からのご指導とご協力をよろしくお願ひします。(書記長 金澤 慧)

みんなの力で復興を

東日本大震災の被災地に対する復旧・復興支援については、わが組合の要請によって実現した行政支援や、自治労によるボランティア派遣等を取り組んできました。しかし、甚大な被害を受けた被災地住民が元の暮らしを取り戻すまで、支援を終わらせることはできません。今回は、連合関東ブロック（自治労 東京都本部）が募集した「陸前高田市社会福祉協議会災害ボランティアセンター」に対し、東京清掃として2陣にわたり4名を派遣し、全国から集まってくるボランティアの受け入れや資材貸し出し業務支援を行なってきました。

陸前高田市へ支援派遣

陸前高田市には、連日400人から800人のボランティアが全国から集まっています。この受け入れ先であるボランティアセンターの運営スタッフを7月31

中執（大田）に東京清掃を代表して復興支援に取り組んでいただきました。とりわけ、川内谷さんについては震災直後の行政支援にも参加し、仙台市でごみや瓦礫の収集運搬を経験していることから、被災地への復興の気持ちは非

陸前高田社協支援ボランティアに参加して

10月14日から19日にかけて、自治労東京都本部からの派遣として、陸前高田社会福祉協議会災害ボランティアセンターにて支援活動を行ってきました。



▲街中にはまだまだ震災の爪あとが残る

全国から集まるボランティアは、主に災害に遭われた民家の庭先の瓦礫や砂利の撤去作業を行います。私たちは、その方たちに対する資材の貸し出し、また、機材を現場に配送するなど、作業が滞り無くなるようにサポートする任務にあたりました。

週末には大型バス20台以上、600名近いボランティア参加者が集結します。こうした皆さんの活躍により少しずつではありますが、着実に復興が進んでいます。また、ボランティア活動の間にも被災地視察に行きました。何百もの船が津波にさらわれ街中まで流されたり、また、5階建ての団地や学校さえも柱が折れ曲がり、窓ガラスが全て割れた状態でした。海から何キ

（北支部 川内谷昭彦）



▲津波に押し流された民家



▲3階建ての学校も津波に飲み込まれた



▲ボランティアセンターでの鈴木中執と杉田中執

ひとこと

某妖怪人間ドラマが大人気である。醜い容姿ながらも、いつか人間になれることを夢見て世に蔓延る悪と戦い続ける、1968年にアニメとして放送されていた作品のリメイクである。「はやく人間になりたい」はあまりにも有名なフレーズだ。

▼一方、現実の人間世界はどうだろうか。雇用の崩壊、非正規労働の拡大は多くの貧困層を生み出し、健康に生活する権利すらも奪われている。その結果、年間3万人以上が尊い生命を自ら絶っているのだ。▼東日本大震災からの復興、原発問題、税と社会保障など待ったなしの課題の解決は遅々として進まず、弱者の生命や権利よりも、経済体制を守ることに優先されている。政治が機能不全を起し、若者が未来に希望を持ってない、お年寄りが安心して暮らすこともできない。▼生まれた当時から大きく変わってしまった、現在の疲弊した社会を見ては「はやく人間になりたい」と思ってくれるのだろうか。

（K・S）